

Ⅱ -2 令和7年度第2期企画展 記録

『花卉高杯—日本海沿岸に広がる青谷ブランド—』

開催趣旨

青谷上寺地遺跡を代表する出土品の一つである「花卉高杯」は、鳥取県東部地域を中心に北陸地域から北部九州まで分布しています。これまで、日本海沿岸を中心に全国で約50点が確認されています。そのうち、実に7割に及ぶ花卉高杯が青谷上寺地遺跡から出土しました。全国に流通していた精巧な花卉高杯は、まさに青谷ブランドと呼んでも過言ではありません。

今回の企画展では、そんな「花卉高杯」に焦点を当て、現時点での研究成果も踏まえて紹介していきます。花卉高杯は青谷上寺地遺跡を象徴する出土品の一つですが、出土地自体は日本海沿岸に点在しています。これらは、青谷上寺地遺跡で製作され流通していったと考えられています。なぜ、青谷上寺地遺跡で花卉高杯が作られ、各地へ運ばれたのか、考察も交えて紹介していきます。

会期

令和7年9月13日～令和7年11月24日

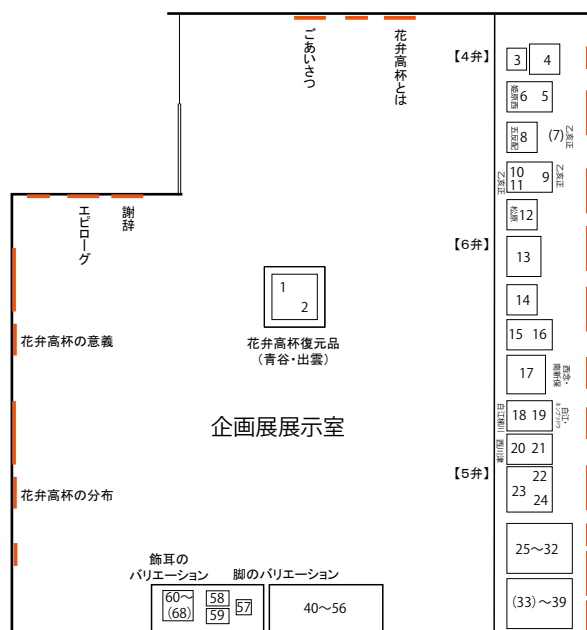


図1 会場レイアウト

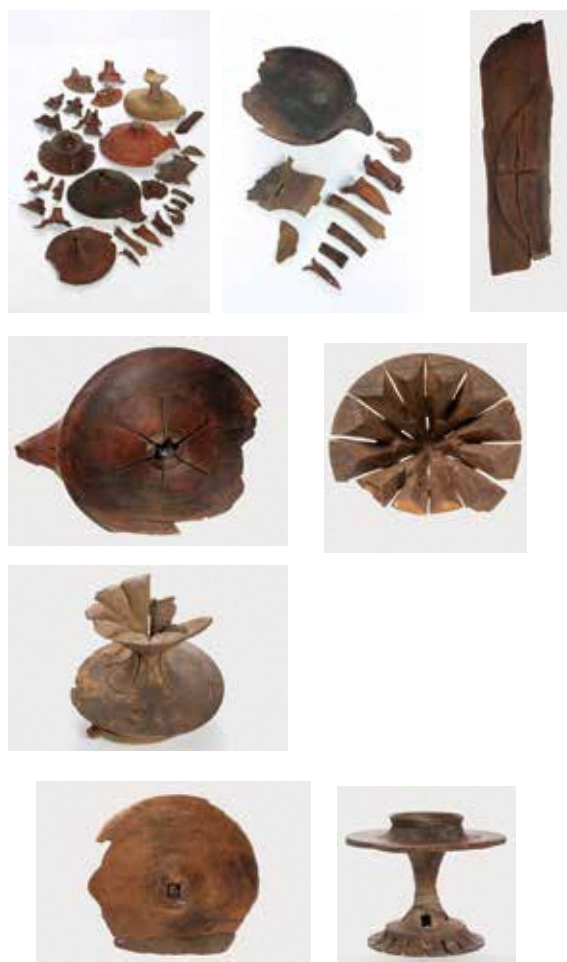


写真1 展示品例

花卉高杯とは

初めに、^{かべんたかつき}花卉高杯の定義や特徴を解説します。

「高杯」とは浅い器（杯）を^{つき}脚台の上に乘せた形状の容器です。青谷上寺地遺跡でも弥生時代中期以降から 100 点以上の高杯が見つっています。弥生時代後期には、杯部外面底部に^{かべんもんよう}花びらの様な文様（花卉文様）を施した「花卉高杯」が日本海沿岸に現れます。花卉高杯の特徴は他にも、花卉文様から伸びた^{ちっせん}沈線（透かし）が脚部に続き花卉文様の 2～3 倍の数の透かしが入る、杯部口縁に^{かざりみみ}飾耳を持つ、脚部に明瞭な「段」を持つ、^{だん}赤色顔料が塗られたものがあることがあげられます。赤色顔料が施されるものは特に精巧で、^{さいし}祭祀などの特別なものと考えられています。



写真2 花卉高杯復元品

花卉高杯の種類

花卉文様は 4 弁、5 弁、6 弁の 3 種類に大別され、その内 4 弁は、円形の段を 4 分割する溝を施す【4 弁 a】と文様を浮き彫り（^{ようこく}陽刻）にする【4 弁 b】に細分できます。4 弁は【4 弁 a】→【4 弁 b】で出現したとされます。6 弁は基本的にしっかりと陽刻され、精巧な作りです。5 弁は他より数が少ない上、^{ふた}蓋が付いたり、彩色で花卉を表したものもあったりと、一線を画す存在です。

4 弁 a の花卉高杯

【4 弁 a】は、青谷上寺地遺跡のほか、鳥取市の^{おつがせやしきまわり}乙亥正屋敷廻遺跡や、島根県出雲市の^{ひめぼらにし}姫原西遺跡で出土しています。作りはやや粗雑で、彩色ありません。青谷上寺地遺跡出土の花卉高杯（展示番号 3・4）は、状態が悪いながらも円形の段の内側を 4 つに区画した溝が認められます。5 と 6 は、いずれもカヤ製の一本造りで、形態もよく似ています。ただし、前者

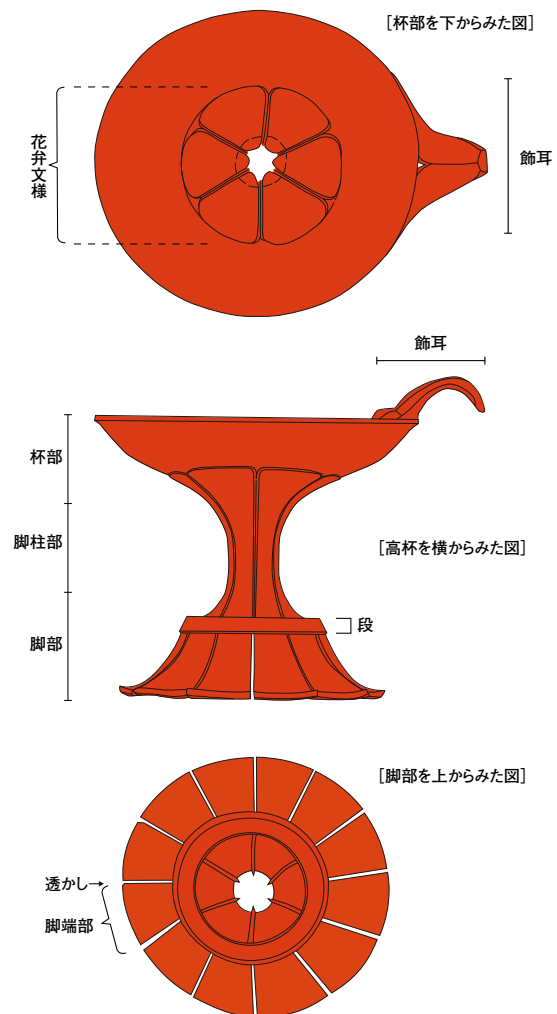


図2 花卉高杯模式図

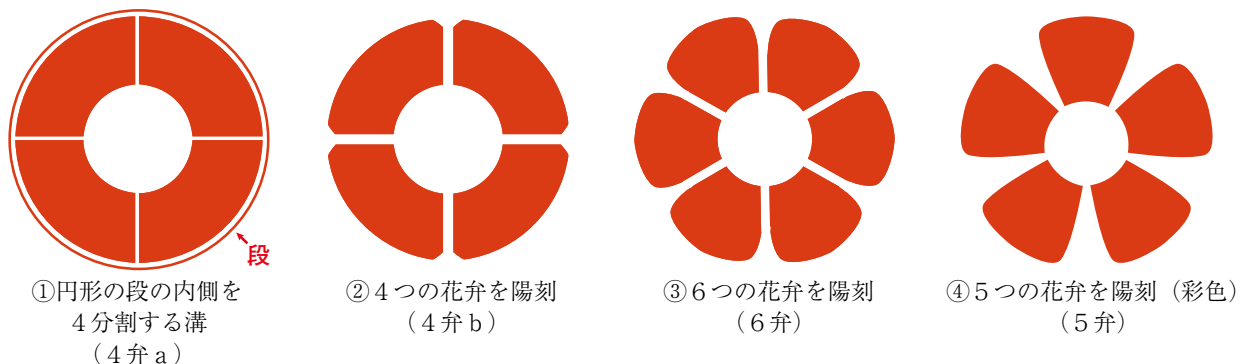


図3 花卉高杯の種類

は脚部の透かしが8方向なのに対して、後者は12方向という違いが認められます。7には、杯部と脚部をつなぐ「柄」が^{ぼぞ}残存しており、組み合わせて使用したことが分かります。



写真3 花卉高杯(杯部、4弁a)

4弁bの花卉高杯

【4弁b】は、青谷上寺地遺跡のほか、鳥取市の乙亥正屋敷廻遺跡(8・9・11)や松原田中遺跡(12)、島根県出雲市の五反配遺跡で見つかっています。

【4弁a】に比べて丁寧な作りで、花卉文様も縁が丸みを帯びた「花びら」らしい形状です。また、9・11や12は、赤色顔料による彩色が施されています。9は一木造りで、8は杯部と脚部の組合せ式です。青谷上寺地遺跡出土の花卉高杯(10)と乙亥正屋敷廻遺跡出土の花卉高杯は一部しか残存していませんが、花卉文様の形状から4弁と判断できます。



写真4 花卉高杯(杯部、4弁b)

6弁の花卉高杯

6弁の花卉文様を持つ花卉高杯は、青谷上寺地遺跡のほか、石川県金沢市の西念・南新保遺跡、小松市の白江梯川遺跡、漆町遺跡(白江ネンブツドウ地区)、島根県松江市の西川津遺跡で見つかっています。

花卉文様はいずれも陽刻され、全体的にとても精巧な作りです。青谷上寺地遺跡の花卉高杯(13～15・21)は水銀朱が塗られ、13～15は同遺跡の高杯の中でも特に秀麗なものです。16は6弁の花卉高杯の脚部で、脚端部には花卉文様の倍となる12本の透かしが認められま

す。西念・南新保遺跡の花卉高杯と白江梯川遺跡の花卉高杯は、赤色顔料が塗られた優品です。杯部内面の真ん中に丸い栓状の材が埋め込まれており、ロクロを使用した痕跡ではないかという説もあります。

漆町遺跡(白江ネンブツドウ地区)の花卉高杯は、北陸地方で唯一、脚部が伴う貴重な資料です。脚端部には花卉文様の倍の12本の透かしが認められます。

西川津遺跡の花卉高杯は、13～19と比べて小型品ですが、花卉文様が丁寧に彫り込まれています。ただし、赤色顔料などが塗られた痕跡は認められません。



写真5 花卉高杯(13～15杯部・16脚部、6弁)

5弁の花卉高杯

5弁の花卉文様を持つ花卉高杯は、現状で青谷上寺地遺跡のみの出土となっています。

22は一木造りで、口縁部が内側に傾きながら立ち上がる特殊な形状をしています。口縁部の2箇所^{ふた}に蓋と紐で固定するための穴あき突起が作られていますが、飾耳^{かざりみみ}の痕跡は認められません。

花卉高杯ではありませんが、花卉文様を持つ資料として、蓋(23)と壺(24)があります。いずれも、外面に黒漆を塗った後、赤漆で文様を描いており、壺の胴部下半には5弁の花卉文様が認められます。花卉文様ではありませんが、蓋の頂部には5つの小円が描かれており、壺の花卉文様に対応するものと考えられます。



写真6 花卉高杯(5弁)
写真7 漆で5弁文様をかたどった
脚付壺と蓋

図4 漆で5弁文様をかた
どった脚付壺と蓋

花卉高杯の系譜

花卉高杯の誕生の経緯について、はっきりしたことは分かっていません。花卉高杯をはじめ、木製品は溝などの長期間に渡って使用された遺構から見つかることが多く、細かな時期を把握するのが難しいのです。そこで、ここでは花卉高杯に見られる特徴を持つ資料を参考に、花卉高杯の系譜を推測してみます。

花卉文様の出現

花卉高杯誕生前である弥生時代中期後葉の高杯は、杯部が碗形と水平口縁の2種類が主体でした。弥生時代後期になると、浅い碗形のものが主体となります。また、杯底部に円形の段を有するもの、飾耳がつくものが現れます。詳細な時期は不明ですが、杯部から脚柱部にかけて四方に溝を施すものもあり、これらの要素全てを含むのが、花卉文様でも初現的な「杯部外面に削り出された円形の段の内側に4分割する溝が施されるタイプ」、【4弁a】です。

その後、4つの花卉文様を陽刻（浮き彫り）する【4弁b】や、6つの花卉文様を陽刻する6弁へ発展していったと考えられます。

透かしを持つ脚部の出現

弥生時代中期に見られる水平口縁の高杯は、脚端部に多数の突起が存在します(34～36)

が、その中に脚端部に透かしを持つものも現れ(37)、後期も続きます。このように、弥生時代中期～後期にかけて、脚端部の突起が透かしに変化していくと考えられます。

花卉高杯の誕生

花卉高杯は、このように杯部・脚部それぞれの装飾性が高いデザインが結びついて誕生したと考えられます。



写真8 杯底部に円形の段を持つ高杯

写真10 溝を施した高杯

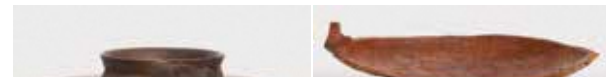


写真11 飾耳を持つ高杯



写真12 高杯



写真13 高杯

写真9 高杯

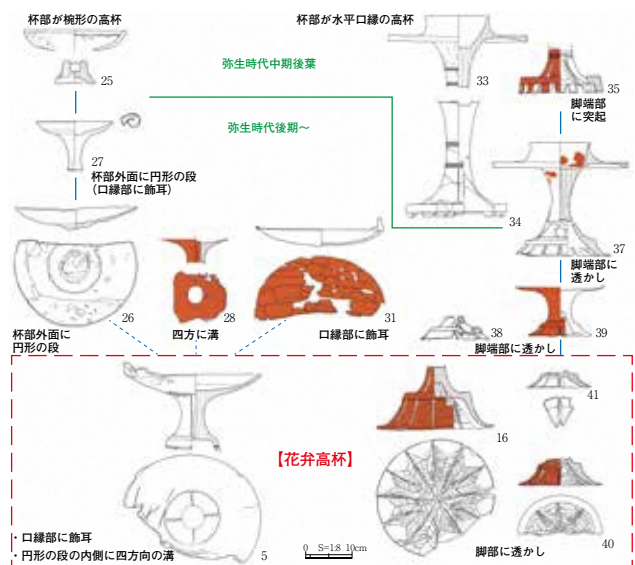


図5 花卉高杯の諸属性と想定される系譜

脚部や飾耳の多様性

脚部の様相

脚部には透かしが施されており、基本的に4弁の場合は透かしが8方向、5弁は10方向、6弁は12方向というように、花卉文様と脚部の透かしは「倍数」の関係が成り立ちます。

また、花卉高杯の脚端部裏側（接地面）は円環状、台形、三角形、四角形、五角形などとその形状は非常に多様です（図6）。花卉高杯誕生以前の高杯が、裏側の接地面を四角形や台形にしたことを考慮すると、接地面形状は四角形・台形→円環状又は四角形→五角形・三角形へと変遷したと想定されます。脚端部は折れやすいため、端部をつなげたり厚みを持たせたりして強度を高める必要があったのでしょう。脚端部を五角形にしたのは、表から見たときに脚部を薄く見せる、当時の「匠」の工夫やこだわりかもしれません。

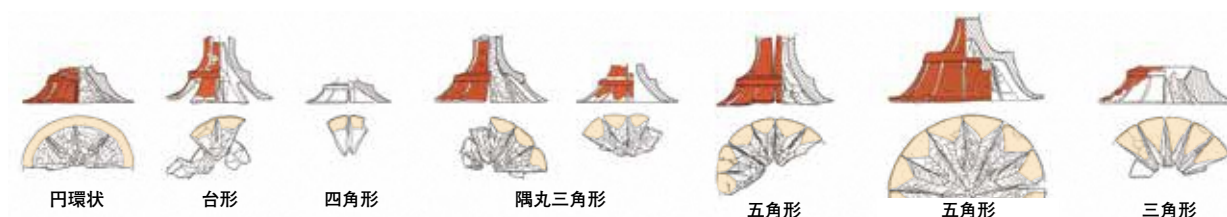


図6 脚部の種類

飾耳の様相

花卉高杯の多くには、杯部口縁から飛び出す飾耳があります。これは同時期の土製高杯には見られない特徴です。60～62は帯状を呈し、60は先端に小さな突起状の装飾、62は先端を下側に丸めるような装飾が施されています。60には赤彩の痕跡が認められます。64・68は先端が尖る形状、65は蓮弁のような本体の先端に突起状の装飾がつくものです。いずれも、口縁部と接する部分には透かし孔^{あな}を施すとともに赤彩されており、装飾性が高いです。63は丸く膨らんだ形状で、透かし孔が中央部分まで及び、赤彩の痕跡も認められます。66・67は幅広で先端に小さな突起状の装飾がつくもので、67には透かし孔や赤彩の痕跡が認められます。

青谷上寺地遺跡では断片的に残るものも含めて様々な飾耳が出土していますが、同じ形は一组ありません。飾耳にも当時の「匠」のこだわりを感じることができます。



写真17 飾耳

花卉高杯に見られる製作痕跡

青谷上寺地遺跡から出土花卉高杯に施された花卉文様は、とても精緻なデザインで規格性が高く、約 1,800 年前の弥生時代に高度な割り付け技術やそれを支えた道具が存在したことを窺がわせます。

青谷上寺地遺跡出土の 6 弁の花卉高杯は、杯部の裏側に口径の約半分を直径とする正円を描き、その円をおおよそ 6 等分しています。脚柱部から脚部上半にかけて、6 等分の流れで文様を施し、径が大きくなる脚部下半ではさらに分割して 12 等分にしています（写真 17）。

写真 18 は展示番号 15 を拡大したもので、花卉文様の外縁に弧状の段が見えます。これは、紐と針を組み合わせた「コンパス」のような道具で正円を描いた痕跡と考えられ、「匠」たちが様々な工夫を凝らしていたことが分かります。

石川県の西念・南新保遺跡や白江梯川遺跡の花卉高杯には、杯部内面の真ん中に丸い栓状の材が埋め込まれており、ロクロを使用した痕跡という説もあります。青谷上寺地遺跡の花卉高杯には認められない特徴として注目されます。



写真 18 花卉文様・透かしの割付事例



写真 19 正円を描いた痕跡

花卉高杯の分布とその意義

花卉高杯の分布

花卉高杯は、北陸から北部九州にかけての日本海沿岸において約 40 点が認められ、青谷上寺地遺跡出土の飾耳を含めると約 50 点が知られています。鳥取市の青谷上寺地遺跡と乙亥正屋敷廻遺跡を除くと、各遺跡の出土点数は 1 点ずつで、鳥取県東部地域を中心に分布していることが分かります。特に、青谷上寺地遺跡では、全体の約 7 割が出土しており、「青谷ブランド」と呼んでも過言ではありません。



図 7 花卉高杯の分布

花卉文様に注目すると、4弁と6弁の花弁高杯には、分布に偏りがあることが分かります(図7)。4弁の花弁高杯は鳥取県東部から島根県東部の山陰エリアにのみ分布しているのに対して、6弁の花弁高杯は石川県から島根県東部までの広範なエリアに分布しています。石川県で見つかった6弁の花弁高杯3点は、いずれも極めて秀麗で、青谷上寺地遺跡の6弁の花弁高杯と比べても優劣付けがたい優品です。5弁の花弁高杯は、現状青谷上寺地遺跡のみで認められており、5弁の花弁文様は青谷上寺地遺跡において特別な器だった可能性があります。

花卉高杯の意義

花卉高杯は、なぜ日本海沿岸に広まったのか。この答えを探るカギは、花卉高杯誕生前となる弥生時代中期後半(紀元前1～2世紀頃)にあると考えられます。

この時期の青谷上寺地遺跡では、石川県小松市で産出する良質な碧玉(菩提系碧玉)を使った管玉(装飾品の一種)の製作が盛んにでした。管玉は当時貴重だった鉄と交換できる重要な交

易品の一つで、青谷上寺地遺跡は管玉と交換した鉄製品を用いて、精巧な木製品や骨角製品などの加工を生業としていました(図8)。

しかし、弥生時代中期末から後期(紀元1～2世紀)になると、北陸の良質な碧玉が入手できなくなります。これは、鉄と交換できる交易品の一つを失うことを意味していました。

6弁の花弁高杯の分布を見ると、良質な碧玉が産出した石川県で優品がまとまっているのが分かります。青谷上寺地遺跡の人々は、従来の鉄製品に加えて秀麗な花卉高杯を提供することで北陸の人々と改めて関係を結び直し、良質な碧玉の入手ルートを再開拓しようとしたのかもしれない。

一方、4弁の花弁高杯は島根県東部で複数見つかっています。この地域は、鉄製品の実質的な入手ルート上のため、良好な関係を維持しようとしたのかもしれない。花卉高杯は、青谷上寺地遺跡と他地域との関わりを知る重要な手がかりなのです。



図8 弥生時代中期後半における交流の様相

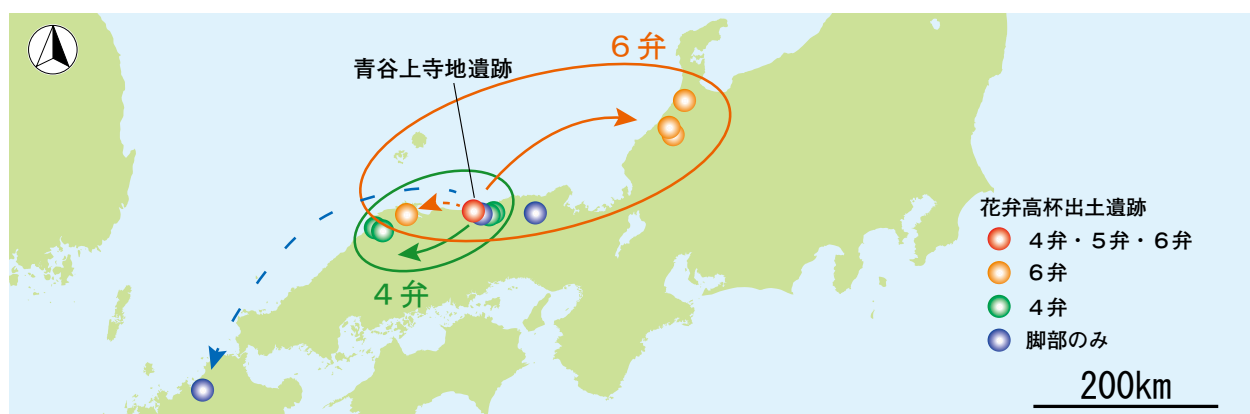


図9 花卉高杯の伝播(弥生時代後期～古墳時代前期)

令和7年度第2期企画展

「花卉高杯ー日本海沿岸に広がる青谷ブランド」展示リスト

展示番号	資料名	部位	遺跡名	樹種	特徴	時期	備考	指定	所蔵機関
1	花卉高杯復元品	—	青谷上寺地遺跡			—			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
2	花卉高杯復元品	—				—			島根県立古代出雲歴史博物館
3	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	クワ属		弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
4	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
5	花卉高杯	杯部～脚部	青谷上寺地遺跡	カヤ		弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
6	花卉高杯	杯部～脚部	姫原西遺跡	カヤ		弥生時代後期～古墳時代初頭			島根県立古代出雲歴史博物館
7	花卉高杯	杯部	乙亥正屋敷廻遺跡	クワ属	ほぞ	弥生時代後期後葉～終末期後半	写真のみ		鳥取県埋蔵文化財センター
8	花卉高杯	杯部～脚柱部	五反配遺跡		彩色（黒色）	弥生時代～古墳時代？			島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
9	花卉高杯	完形	乙亥正屋敷廻遺跡	クワ属	彩色（赤色）	弥生時代後期後葉～終末期前半			鳥取県埋蔵文化財センター
10	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期～終末期	未報告		鳥取県立青谷かみじち史跡公園
11	花卉高杯	杯部	乙亥正屋敷廻遺跡	ヤマグワ	彩色（赤・黒）	弥生時代後期後葉～古墳時代前期？			鳥取県埋蔵文化財センター
12	花卉高杯	杯部	松原田中遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	—			鳥取県埋蔵文化財センター
13	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
14	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ニレ科	彩色（赤色）	弥生時代後期～終末期		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
15	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
16	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～終末期		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
17	花卉高杯	杯部	西念・南新保遺跡	クワ属	杯底部中央に小さな孔（埋め木）、彩色（全面朱、一部黒色）	弥生時代後期		石川県指定文化財	金沢市埋蔵文化財センター
18	花卉高杯	杯部	白江梯川遺跡	クワ属	杯底部中央に小さな孔（埋め木）、内外面に朱の痕跡あり	弥生時代後期			石川県埋蔵文化財センター
19	花卉高杯	杯部・脚部	漆町遺跡（白江ネンブツドウ地区）	ケヤキ		古墳時代前期			小松市埋蔵文化財センター
20	花卉高杯	杯部	西川津遺跡		杯底部中央に小さな孔	弥生時代			島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
21	花卉高杯	杯部	青谷上寺地遺跡		花卉文様部分の破片	弥生時代後期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
22	花卉高杯	ほぼ完形	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
23	蓋	ほぼ完形	青谷上寺地遺跡	モクレン属	漆塗り・彩色花卉文様あり	弥生時代後期	レプリカ	現品：重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
24	壺	ほぼ完形	青谷上寺地遺跡	サクラ属	漆塗り・彩色花卉文様あり	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	レプリカ	現品：重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
25	高杯	杯部・脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代中期後葉			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
26	高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ニレ科	ほぞ	弥生時代後期～終末期		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
27	高杯	杯部～脚柱部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	段・飾耳の痕跡あり	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
28	高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	4方向の区画あり 彩色（赤色）	—			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
29	高杯	杯部	青谷上寺地遺跡		飾耳の痕跡あり	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
30	高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	飾耳の痕跡あり	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
31	高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	ケヤキ	飾耳・漆補修の痕跡あり	弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
32	高杯	杯部	青谷上寺地遺跡	（ヤマグワ）	飾耳の痕跡あり	弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
33	高杯	杯部～脚柱部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代中期後葉？	写真のみ	現品：重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
34	高杯	脚柱部～脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代中期後葉	写真のみ		鳥取県立青谷かみじち史跡公園
35	高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代中期後葉		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園

Ⅱ -2 令和7年度第2期企画展 記録

展示 番号	資料名	部位	遺跡名	樹種	特徴	時期	備考	指定	所蔵機関
36	高杯	脚部	青谷横木遺跡	ケヤキ		弥生時代後期前葉			鳥取県立埋蔵文化財センター
37	高杯	ほぼ完形	青谷上寺地遺跡	ケヤキ	彩色（赤色）	弥生時代後期～終末期		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
38	高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
39	高杯	杯部～脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	—			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
40	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	カヤ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
41	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
42	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡			—			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
43	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期～終末期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
44	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
45	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡		彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
46	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
47	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
48	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
49	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
50	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
51	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
52	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）		写真のみ		鳥取県立青谷かみじち史跡公園
53	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡		彩色（赤色）	弥生時代後期		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
54	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	（ヤマグワ）		弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
55	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡	（ヤマグワ）	彩色（赤色）	弥生時代後期～終末期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
56	花弁高杯	脚部	青谷上寺地遺跡		彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
57	花弁高杯	脚部	袴狭遺跡	針葉樹		弥生時代終末期			兵庫県立考古博物館
58	花弁高杯	脚部	乙亥正屋敷廻遺跡	クワ属	彩色（赤色）	弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県埋蔵文化財センター
59	花弁高杯	脚部	青谷横木遺跡	ケヤキ	彩色（赤色）	弥生時代中期後葉～後期前葉			鳥取県埋蔵文化財センター
60	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡		彩色（赤色）	弥生時代後期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
61	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代後期～終末期			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
62	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ		弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
63	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代終末期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
64	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
65	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期後葉～終末期		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
66	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	カヤ		弥生時代後期～古墳時代前期初頭			鳥取県立青谷かみじち史跡公園
67	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡		彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園
68	—	飾耳部	青谷上寺地遺跡	ヤマグワ	彩色（赤色）	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	写真のみ	現品：重要文化財	鳥取県立青谷かみじち史跡公園

主要参考文献

【論文等】

石川ゆずは 2019「纏向遺跡辻土壌 4 出土装飾木製高杯の系譜」『古代学研究』222 古代学研究会
 浦蓉子 2020「古墳時代前期における木工技術の変容」『奈文研論叢』奈良文化財研究所
 工楽善通 1989「木製高杯の復元」『古代史復元 5—弥生人の造形—』講談社
 茶谷満 2013「青谷上寺地遺跡出土の木製容器」『木製品から見た古代の暮らし』島根県古代文化センター
 樋上昇 2008「花卉高杯の果たした役割」『弥生の至宝—花卉高杯とその背景—』鳥取県埋蔵文化財センター
 樋上昇 2009「木製容器からみた弥生後期の首長と社会」『木・ひと・文化—出土木器研究会論集—』出土木器研究会
 久田正弘・石川ゆずは 2005「白江梯川遺跡の木製高杯について—資料提示と問題提起—」『石川県埋蔵文化財情報』第 14 号（公財）石川県埋蔵文化財センター
 馬路晃祥 2019「乙亥正屋敷廻遺跡の木材利用について」『乙亥正屋敷廻遺跡 第 4 分冊』鳥取県埋蔵文化財センター
 馬路晃祥 2021「花卉高杯のライフサイクル」『青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2020』鳥取県埋蔵文化財センター
 三宅博士 2013「弥生時代木製品の現寸模刻による製作技術の模索」角田徳幸編『木製品から見た古代の暮らし』島根県古代文化センター

【報告書等】

石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター 2024『白江梯川遺跡Ⅴ』
 金沢市教育委員会 1983『金沢市西念・南新保遺跡』
 金沢市・金沢市教育委員会 1996『西念・南新保遺跡Ⅳ』
 建設省松江国道事務所・島根県教育委員会 1999『姫原西遺跡』
 島根県土木部・島根県教育委員会 2003『西川津遺跡Ⅸ』
 島根県教育委員会 2005『五反配遺跡』（平成 16 年度調査）
 島根県立古代出雲歴史博物館 2013『匠の技—弥生木製品から出雲大社まで—』
 島根県教育庁古代文化センター・島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2006『島根県における弥生時代・古墳時代の木製品修正』
 島根県古代文化センター 2013『木製品から見た古代の暮らし』
 鳥取県教育委員会 2018『松原田中遺跡Ⅲ』
 （財）鳥取県教育文化財団 2001『青谷上寺地遺跡 3』
 （財）鳥取県教育文化財団 2002『青谷上寺地遺跡 4』
 鳥取県埋蔵文化財センター 2005『木製容器・かご』
 鳥取県埋蔵文化財センター 2008『弥生の至宝』—花卉高杯とその背景—
 鳥取県埋蔵文化財センター 2009『青谷上寺地遺跡 10』
 鳥取県埋蔵文化財センター 2012『青谷上寺地遺跡 12』
 鳥取県埋蔵文化財センター 2014『青谷上寺地遺跡 13』
 鳥取県埋蔵文化財センター 2018『青谷横木遺跡Ⅱ』
 鳥取県埋蔵文化財センター 2019『乙亥正屋敷廻遺跡』
 兵庫県教育委員会 2000『袴狭遺跡』
 兵庫県立考古博物館 2011『木のうつわ 六千年の技』
 福岡市教育委員会 1990『比恵遺跡群（9）』

協力者一覧

【機関・団体】（五十音順）

石川県教育委員会
 金沢市埋蔵文化財センター
 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
 小松市埋蔵文化財センター
 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
 島根県立古代出雲歴史博物館
 鳥取県埋蔵文化財センター
 兵庫県立考古博物館

【個人】

（五十音順、敬称略）
 石川 ゆずは
 鏡 百恵
 樫田 誠
 北浦 弘人
 木林 俊英
 鐵 英記
 澤田 正明

下濱 貴子
 茶谷 満
 鶴来 航介
 中川 寧
 中屋 克彦
 端 猛
 林 大智
 東山 信治

久田 正弘
 藤原 孝大
 真木 大空
 馬路 晃祥
 谷口 明伸
 山柊 雅美
 横幕 真
 渡瀬 健太